



平成28年 8月 8日発行

## 第 101 号

事務局 〒169-0051 東京都新宿区  
西早稲田2-18-23スカイエスタ507  
TEL/FAX 03-6457-3921  
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp  
http://www.seishineisei.gr.jp/



### 〈目 次〉

- 日本精神衛生学会第32回大会ご挨拶…………… 1
- 日本精神衛生学会第32回大会開催概要…………… 2
- 熊本地震現地報告…………… 5

## ご 挨 拶

第 32 回日本精神衛生学会 大会長  
牛島定信（東京慈恵会医科大学・三田精神療法研究所）

私たちはこの 20 世紀の間に科学的思考（自由平等、人権）と科学的技術の進歩を手にしました。それは、人類の幸福を約束するはずのものでした。しかし、現実にはそれを手にしてみると、如何にも生き辛い世の中になっている現実と直面しています。痛ましい子どもの虐待死、イジメ、うつ病と自殺者の多発、物余りの中の貧困など社会病理は枚挙に暇がありません。

私見によると、科学技術の発達には男性の肉体労働の意義を奪い、男女関係のあり様の変化を求めていますし、IT の発達はビッグデータと世界的規模で瞬時に伝達を可能とし、地域社会での生活だけではなしに、先進国と発達途上国の概念、あるいは関係の変化さえもたらしているかにみえます。私たち、メンタルヘルス・プロフェッショナルズもまた、そうした時代の渦中にあることを考えておかねばなりません。

この度、精神衛生学会は、シンポジウムに『死生観』と『生活支援』をテーマに取り上げ、『生きることに困難を感じる人たち』という合同シンポジウムに参加することになりました。ガン宣告を受けても科学の力は死をずっと先延ばしにしてくれる時代ですし、障害者も社会からの脱落者のイメージから地域の生活者として位置づけられる時代となっています。支援者として自らを位置づけている私たち自身もまた変化を求められていると云えます。

21 世紀とはどのような時代か。それらを見据えた討論の場になればと願っています。

# 日本精神衛生学会第 32 回大会 開催概要

## ～メンタルヘルス関連三学会 合同大会～

今回は、日本精神衛生学会と関連の深い2つの学会との初の合同開催です。

### <主催>

\* 日本精神衛生学会    \* 全国大学メンタルヘルス学会    \* 日本学校メンタルヘルス学会

### <実行委員> (精神衛生三学会連合)

- \* 会長    牛島定信 (東京慈恵会医科大学・三田精神療法研究所)
- \* 副会長    上別府圭子 (東京大学大学院医学系研究科)
- \* 実行委員    早川東作、酒井佳永、森美加、中野良吾
- \* 事務局    馬淵麻由子

<期間>    **2016年12月9日(金)～12月11日(日)**

<場所>    一橋大学 一橋講堂

〒101-8439    東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内  
<http://www.hit-u.ac.jp/hall/file/index/guide.pdf>

<大会テーマ>    **21世紀のリアル** –メンタルヘルスの目指すもの–

### <事前登録> (参加および発表)

\* 9月30日までに、メンタルヘルス関連三学会合同大会ホームページ  
<http://www.sysconet.jp/mh3/index.html>  
よりご登録の上、10月10日(月)までに参加費をお振込み下さい。

\* 参加費 (3日間すべてのプログラムへの参加ができます)

|                          |      |        |       |          |
|--------------------------|------|--------|-------|----------|
| 会員                       | 事前申込 | 8,500円 | (当日申込 | 10,000円) |
| 学部生・院生                   | 事前申込 | 4,000円 | (当日申込 | 4,000円)  |
| 合同懇親会 (12/10(土)一橋講堂中会議室) |      |        |       | 5,000円   |

### <一般演題募集>

\* 申し込み締め切り: **2016年8月31日(水)**

\* 発表形式: ポスター発表 (**2016年12月10、11日**)

\*抄録様式：大会ホームページに抄録フォーマットをご用意しております。

\*申し込み方法：大会事務局宛 ([mh3\\_2016@cc.tuat.ac.jp](mailto:mh3_2016@cc.tuat.ac.jp)) にメールにて送付してください。

\*発表の決定：10月半ばまでにメールにて採否のご連絡をいたします。

## <プログラム概要>

### 【三学会合同企画】

#### 1. 合同シンポジウムⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月9日（金）

##### 「発達障害 ー支援の現状と今後の展望ー」

福田 真也 先生（あつぎ心療クリニック/明治大学・成蹊大学学生相談室）

渡邊慶一郎 先生（東京大学学生相談ネットワーク本部 准教授）

土屋 賢治 先生（浜松医科大学子どものこころの発達研究センター 特任准教授）

#### 2. 合同シンポジウムⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月10日（土）

##### 「オープンダイアログ ー精神医学、社会学、文化人類学のクロストークー」

斎藤 環 先生（筑波大学 教授、社会精神保健学）

宮台 真司 先生（首都大学東京 教授、社会学）

上田 紀行 先生（東京工業大学リベラルアーツセンター教授、文化人類学）

#### 3. 公開シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月11日（日）

##### 「生きることに困難さを抱える若者たちをどう支援するか」

水野淳一郎 先生（長信田の森生活塾「自在館」・診療クリニック 副院長）

目良 宣子 先生（山陽学園大学 教授）

池上 正樹 氏（フリージャーナリスト）

高塚 雄介 先生（明星大学 名誉教授）

荒井 浩司 氏（SMBCLラーニングサポート研修部長）

#### 4. 特別講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月11日（日）

##### 「不登校へのアプローチ」

中村 伸一 先生（中村心理療法研究室 室長）

### 【日本精神衛生学会企画】

#### 1. シンポジウム1・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月10日（土）

##### 「21世紀の生活支援 ー地域で働く、地域で暮らすー」

宮崎 宏興 先生（NPO法人いねいぶる）

木戸 芳史 先生（三重県立看護大学 准教授）

下平 美智代 先生（NPO法人リカバリーサポートセンターACTIPS）

#### 2. シンポジウム2・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月10日（土）

##### 「21世紀の死生観とメンタルヘルス」

清水 哲郎 先生（東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 特任教授）

岩満 優美 先生（北里大学大学院医療系研究科 教授）

近藤 和子 先生（マザーリング&ライフマネジメント研究所/みんなのMITORI・研究会 代表）

3. 報告集会

「MCRT 活動報告会／熊本地震支援をめぐって」・・・・・・・・・・12月11日（日）

福島 眞澄 先生 （メンタルヘルスビューロー／日本精神衛生学会常任理事）

\* プログラムの詳細は大会ホームページ <http://www.sysconet.jp/mh3/> でお覧ください。

<お問い合わせ先>

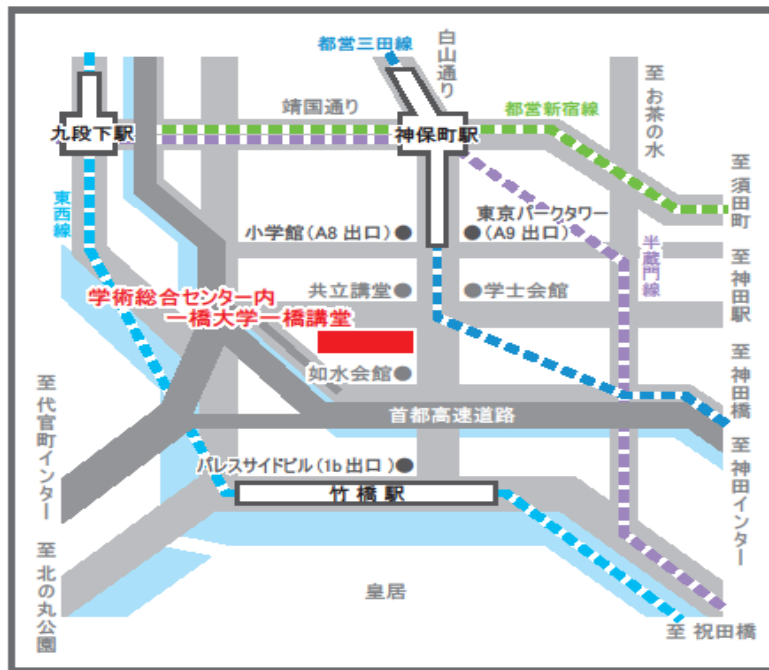
大会事務局（精神衛生三学会連合）

東京農工大学保健管理センター 早川研究室内

〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16

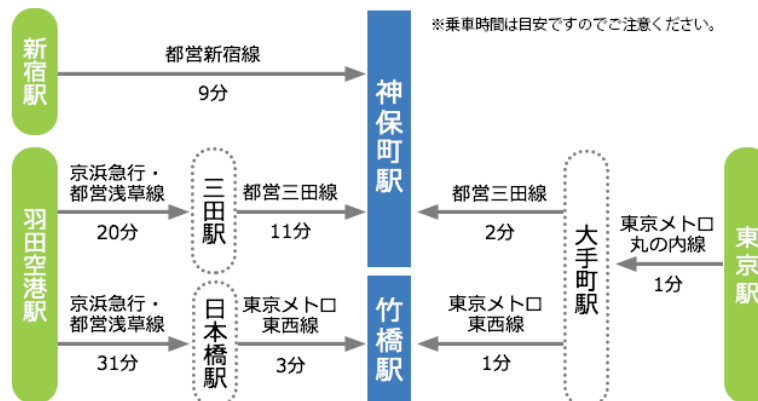
メール mh3\_2016@cc.tuat.ac.jp

<会場のご案内> 一橋大学一橋講堂への経路



【一橋大学一橋講堂】  
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4 分  
 ※A8 出口は、近隣ビルの工事のため平成 25 年 10 月 5 日から閉鎖しております。  
 お越しの際には A9 出口をご利用ください。  
 東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4 分



## 熊本地震現地報告

明治学院大学 阿部裕（本学会理事）

第1回目は2016年4月23日（土）～26日（火）まで、南阿蘇村の長陽地区（阿蘇土砂災害地区）に「地球のステージこころのケアチーム」として入りました。体育館が大避難所になっていて、日赤がテントを張って診療している隣の一角での診療と、他の地区の避難所回りを行いました。診療所を訪れる人は少なかったのですが、体育館に避難している方は80歳以上の高齢者も多く、過酷な生活を送っていました。また余震も多かったため、グラウンドの駐車場の車の中で寝泊まりしている人も多くいました。他の避難所でも状況は変わらず、特に余震の恐怖で自宅に戻れない人が多く、先の見えない不安を抱えている人が多いのが今回の地震の特徴でした。

第2回目は6月11日（土）～12日（日）に、熊本市を訪れました。11日は熊本学園大学の下地明友先生とくろかみ心身クリニックの本島昭洋先生からお話を聞きました。2人とも中央区に居住していますが、下地氏の家は益城に近く、一部損壊で、屋根周りを修繕しなければならないとのこと。今でも奥様と2人でテーブルの下に寝ているそうです。熊本空港では土産店は一部休店、レストランは閉鎖中でした。空港から益城町、中央区を通り、熊本駅までバスで向かいましたが、途中、一部損壊の家屋で、青いビニールシートを屋根に乗せて雨を防いでいる家屋をかなり見かけました。

下地氏が勤務している熊本学園大学も、多い時は700人近い避難者がいたとのことですが、徐々に減り今は0という話でした。熊本学園大学は福祉系の学部があり、彼が精神科医で医師がいるということで、急激に避難者が増えたとのこと。応援は全く頼めず、彼1人で700人近くに対応したということで、完全にburn outだったとのこと。彼の話では、公的機関が、DMATやDPATとして入り始める前の1週間が、身体的ケアを含めたところのケアでも重要であると強調されていました。

本島氏の話では、精神科クリニックは水が出なく数日間は困ったと話していましたが、自分の家が損壊した先生以外は比較的早く診療を開始できたとのことでした。先生方は自分のところに来院する患者で手いっぱい、とても避難所をめぐる余裕はなかったと言っていたそうです。精神科病院では、益城町にある益城病院、御船町にある希望ヶ丘病院、阿蘇市にある阿蘇やまなみ病院が被害を受けました。精神科単科の益城病院は、倒壊の恐れがあったため、九州大学の精神科の支援を受け、入院患者（約200人）をすべて別の病院へ移送したとのことでした。現在の建物の状況は分からないものの、患者が徐々に戻ってきているとのこと。希望ヶ丘病院も一時はすべての患者が避難したとのことでしたが、今は通常に戻っているとのこと。阿蘇やまなみ病院は、一時は5階以上の病棟が閉鎖されていましたが、今は通常に戻っているとのこと。

現在熊本市は、地域の保健師が活躍、熊本市民病院は閉院のままで、別の場所に病院を再建するとのことで、そこにかかわっていた保健師の多くが地域に入っているようです。しかし、熊本市は人口が多いため、戸別訪問まではできず、地域の中で孤立している人もいるのではないかという話でした。また、ゲートキーパーの研修は行っているが、今回の地震について特にゲートキーパーを強化する話はないとのことでした。

2日目は、11時から14時まで、熊本市国際交流振興事業団（八木事務局長）が主催した、熊本市国際交流会館で行われた、第4回外国人相談会に参加しました。5月1日の第1回は、相談件数48件、心の相談もかなりあり、特に5月8日に行った第2回の相談会で、相談件数50件のうち、心の問題が19件あったということで、急遽多文化間精神医学会会員である私が参加することになりました。第3回は熊本大学の中で、5月31日に外国人留学生向けに行いましたが、相談者は4人だったとのことでした。

12日、日曜日、当日は雨だったせいなのか、需要が減ったのか分かりませんが、心の問題で相談に来た外国人は1人のみでした。通訳も揃えていましたが、イタリア語、英語、スペイン語を話せる心理士が1人いたので彼が対応していました。アフターミーティングでは、今後も2週間に一度外国人相談会を開いていくこと、心のケア対応は、その心理士と熊本大学病院に勤務している臨床心理士が対応し、精神科医療が必要な場合には、通訳付きで熊本大学病院精神科を受診するシステムにすることを決めました。熊本市国際交流振興事業団は、すでに医療通訳システムを持っているので、精神科医療との協働はスムーズに運びそうです。以上簡単ではありますが、熊本市現地の状況をレポートしました。

